

歌が生まれる

校歌制作レポート 第6回



イラスト：山崎奈緒

前回のおさらい

- ① 木漏れ日揺れる裏山に 学海の風そよぐとき
- ② 赤き煉瓦の学舎（まなびや）に 集いし友と語る夢
- ③ 敬愛・勤勉・聡明を 若き歩みの旨として
- ④ 共に開かん知の扉 上田短大我が母校

というダミー歌詞を叩き台として、次のような方針を立ててみました。

- ・ 自然や地理・歴史的背景を歌うのはよい。ただし卑近にならないこと。
- ・ 時を経て変わる可能性が高いものを具体的に描写することは避ける。
- ・ 熟語はなるべく解（ほど）く。
- ・ 青文字のような「私の姿・ありかた」を描く。

※ 校名を歌うかどうかはまだ未定

…というわけで、今回は「私の姿・ありかた」をどう歌うかをもう一步踏み込んで考えようとしたところ、何やらセンセイ根性がむくむくと湧き上がり、ねちねちと説教臭い物言いになってしまいましたが悪しからず。

これも過程のひとつです。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 8月18日 レポート

「人(私)の姿・ありかた」をどう歌うか ～青文字再考～

集う・友・語る・夢・若い・歩む・共に…。ダミー歌詞を無理やり七五調にしようとたまたま拾った言葉には人(私)の姿が写っており(「知の扉」が紛れ込んでいたけれど、これは別)、熟語を解けばそこにもやっぱり人の姿が…。ならば、積極的にそれを歌ってみるか、と、寄せられた言葉をあらためて眺めると、ぼんやりとながら次のような像が浮かんできます。

**元気で笑顔で、個性豊かな仲間と
手を取り、支え合い、語り合い、励み合い、心を通わせ
美味しい学食ゴハンを楽しみに、るるんらんらんのびのびと
夢を抱き、夢を育み、夢を叶え
未来を変え、未来を創る**

これらは全て現役学生からの言葉で、「個性」「仲間」「～合い(合う)」「夢を～」「のびのび」「学食」は多数の重複がありました。んんん。なんだかメガ盛りお子様ランチの食品サンプルみたいだぞ。困ったな、こりゃ💧

そんなに君たちは「みんなで一緒に○○し合い」たいのか? 「個性豊か」って、そりゃ当たり前で、みんな違うんだからそれぞれがしっかり自分を問う孤独と戦うのが今君たちがするべき仕事なんじゃないのか? 手探りの悶々と汗臭い営みを、自分は自分なりに、アイツはアイツなりにやるしかない、そんな季節をここで共有した、ということが、いつまでも忘れない連帯感や絆感につながるのではないのか? 現校歌の最初の三節… **明日が遠い思い出になる日も／世界のどこかで生きていて／希望を星に繋いで学んだ友を呼ぼう** …は、多分そのことを歌っている。「私達はそんな関係性を築く(築きたい)のだ」と。「希望を星に繋いで学ぶ」は個々の想像力を喚起する、正解のない、共有不能のイメージだから、一緒に頑張りようがない。つまり、みんなで仲良くお手々つないでるるん… は、そもそも想定されてないのだ。このくらい爽やかに、凜としていきたいものだが、どうだろう?

学食は一時的な物的環境だから、赤煉瓦がダメなのと同じ理由で不採用。紫苑寮だって無くなったではないか。「のびのび」は他者の描写に使うのが普通で、自分に使うってのはどうよ? 「夢」や「未来」に思いを馳せるのはいいけれど、ここで育んだり変えたり創ったりするのは自分自身ではないのか? な～～あなか、ヒトゴトみたいで甘ったれた感じなんだよなあ…

……まずい。コーフンしてきた。頭冷やして、次回仕切り直しです。